

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議室や事務所、玄関に張り出し、スタッフ、外来者に目に付くようにしている。	法人の社是やホーム独自の理念についてホーム会議や運営推進会議の折に話をし、内外に理解を深めていただいている。また、利用前には家族等に説明がされ、玄関や事務所にも掲示し来訪時に目にすることができる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	開所時から継続して回覧板をまわして頂いている。童謡唱歌を歌う会に年3回参加することで、地域の方と交流する機会が持て、顔馴染みになってきている。お花見の時期など外出の時には声を掛けて頂いている。	区費を納めている。近隣の保育園へ散歩がてら夏のプールを見に出掛けたり、区公会所で開かれる社協主催の「ミニサロン」に出かけ寸劇や落語を楽しんだり童謡唱歌を歌い、100円の会費でお菓子とお茶も頂き歓談している。職場体験も積極的に受け入れ、今期は中学生のほか、職員の兄弟である高校生の受け入れも行った。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	童謡唱歌を歌う会の参加の折や外出等の支援の際のスタッフの対応を見て頂いている。認知症であっても人としての関わり方には変わりなく、気軽な声掛けをお願いしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回開催。家族代表、地域・行政の担当者に参加いただき、活動内容など全てに関して意見交換している。施設に関して危険回避のために必要との意見を頂いたが身体拘束の観点から原則しない事を説明。	家族代表、区長、区消防団部長、広域連合職員、市高齢者福祉課職員、市介護なんでも相談員等の参加をいただき開催している。2月は以前から運営推進会議で要望のあった金曜日の14時15分から行い、「のびのび体操」の見学をしながらの開催となったという。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。市の相談員制度により相談員の派遣をして頂き、お客様の意見の集約に協力をお願いしている。	市担当者とは運営推進会議に来訪された折などにホームからの話をし、市で行われている介護関連の話など、意思疎通ができています。介護認定調査はほとんどの利用者がホームで受け、利用者の実情やケアサービスの取り組みを伝えるなど情報提供が行なわれ協働関係が築かれている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフの研修で虐待について話しあっている。緊急やむを得ない場合の3要件についての理解を行ないお客様の安全確保にも努めている。	身体拘束の研修を職員は年1回受けている。職員が思う身体拘束や虐待とはどのようなものなのか書き出し一覧表にして更衣室と和室に貼りだしている。日々見直すことにより新しい気づきがあり、毎年書き出し掲示している。離設傾向にある方には、気分転換に外出し、本人の気持ちに沿った対応をしている。

ニチイケアセンター四賀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	26年7月に研修を行ない、虐待と思われる行為についてスタッフ個々に書き出して貰った。それをまとめて更衣室などに張り出し意識付けをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に必要な説明を行ない、理解の上で署名、捺印を頂いている。改定時は改めて説明し、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の際に気軽に意見等言って頂けるようにスタッフ個々が雰囲気作りに努めている。年1回自社の顧客満足度調査において寄せられた意見を受け止め、改善に努めている。	1階はほとんどの方、2階はほぼ全員が思いを伝えることが出来る。家族にはおこずかいなどの補充に来訪していただいたときに近況を報告し要望等をお聞きしている。出された意見・要望を「管理日誌」に記入し職員の情報の共有化を図り、ケアに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回ホーム会議を行ない、意見の集約を図っている。日頃の業務の中でも必要なことはその場で話し合いを行ない、意識統一を図っている。	ホーム会議に出席できなかった職員には管理者が直接内容を伝えている。法人独自の自己評価が行われており、職員一人ひとりのキャリアアップが図られている。また、申し送りや朝礼、夕礼時にも意見や要望を汲み上げ意見の集約をし、法人からの連絡・報告など、情報の共有化にも努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ニチイ学館の制度に則って、非常勤者には自給がアップする制度を活用している。常勤者には資格により手当をつけている。適宜ユニット間の移動を行ない、意欲、向上心が継続できるように図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議にて研修を行なうと共に、ニチイ学館岡谷支店で行なう研修にもシフトの調整をして参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	諏訪広域連合で行なわれる研修等に参加し、同業者との交流を図っている。また、管理者が月1回行なわれる自社のグループホーム会議に出席し、意見交換をしている。		

ニチイケアセンター四賀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	センター方式の書式によりアセスメントを行っている。入所当初の方はもちろん、お客様には否定の態度を示さず、受け止める事で安心して頂けるようにスタッフ統一して接している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	センター方式の書式によりアセスメントを行っている。ご家族の思いを受け止め、要望に沿った計画書の作成を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームでの支援の方法を理解して頂き、その方にあったサービスなのか確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフはお客様の生活空間にお邪魔させて頂いているとの認識で、できる事できないことの見極めをして支援させて頂いている。平均介護度が3を超え、支援の部分が増えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	遠方にいるご家族もあるが、必要なことは報告し、常に共に支えて行く意識を継続して頂けるように努めている。月1回の担当者からのメッセージカードは継続している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙や電話での問い合わせの際にはお客様の状況をスタッフがお知らせしている。開所当時から居られるお客様は、お付き合いが疎遠になっている。	利用者に電話があつた場合は、子機を渡し居室にてお話をいただいている。馴染の美容院へは家族等に依頼しているが、美容出張サービスをほとんどの方が利用されている。利用者への来訪者があつた場合、前もって家族等に了解を得た上で面会していただいている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事をしたり日中過ごす席をその時々状態によって換え、気の合う人通しの交流を大切に、また、安心してくつろげる空間を確保している。		

ニチイケアセンター四賀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後は必要がなければ連絡を取り合っていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思を言葉で伝える事が出来ないお客様が多いが、何事にも説明と同意を得るように統一している。何気ない言葉の中にも意味を見出せるようにスタッフ一人一人が心掛けている。	居間兼食堂で日中過ごされる利用者が多い。1・2階ともほとんどの方が思いや意見を出せるが、利用者の生活歴や家族等からの聞き取りを踏まえ利用後の日々の心身状態を把握したうえで各利用者毎にきめ細かく対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の書式を活用にその把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お客様毎の介護記録により、日々の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族には面会の折などに要望を聞き取るように努めている。モニタリングの内容を基に担当者会を開催。意見をまとめ、介護計画書の作成を行なっている。	職員は1～2人の利用者を担当しておりモニタリング時にはケアマネージャーに意見を求められることがある。期間を定め、ホーム会議での職員からの情報提供を受け、計画を見直している。利用者に状態変化が見られたときには随時計画を変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録により情報を共有し、必要な内容を盛り込んだ介護計画書を作成する事に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズに合わせ、個々に合ったサービス提供を心掛けている。		

ニチイケアセンター四賀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	可能な中で公民館活動に参加させて頂いている。消防団の代表の方に運営推進会議に出席して頂き、お客様の状況など理解していただく中で、有事の際の協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設提携医の訪問診療を月2回受けている。個人で主治医の訪問を受けている方もいる。必要の時にはいつでも相談に乗って頂き、適切なアドバイスを受けている。	ほとんどの利用者が施設提携医の往診を受け、内科以外の疾患については提携医師の紹介で他の医療機関で受診することもあり、安心の暮らしに繋がっている。また、訪問看護ステーションの看護師に週1回来訪していただき健康管理や相談に応じていただき、夜間の緊急事態にも連携がとれるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の協力を得ている。週1回の訪問時には状況を説明し、必要な指示を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には書面での情報提供を心掛けている。退院時にはカンファレンスに出席し、退院後の受け入れが可能かも含め、支援方法を検討している。医療連携相談室との連絡を大切に考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時の医療連携加算の説明の際に、施設側の考えをお伝えしている。お客様の状態に変化があった場合は医療関係者の協力を得ながら後の対応をご家族に相談させて頂いている。	利用開始時には家族等に重度化した場合についての説明が十分されている。看取りなどの現実遭遇した場合にも医師や看護師との連携がとれるようになっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修の項目として取り組んでいる。スタッフ2人以上での確認、対応を統一している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を実施。夜間に対してはスタッフの通報訓練を行なった。地区の消防団に建物見取り図とお客様の身体状況を書面で渡し、有事の際の対応をお願いしている。	避難訓練は4月、10月の年2回利用者も実際に避難し行っている。消防署員にも参加していただき実施しており、災害発生初期避難時の2階利用者への対応やエレベーター使用の具体例など詳細に指導をいただき、あらゆる想定に備えている。	

ニチイケアセンター四賀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	虐待防止の研修の中で、配慮すべき重要な事として意識統一を図った。	建物の構造上、日中常にいる居間からトイレドア開閉時の利用者が見えるため、視界に入らないようケアするなどホーム会議や申し送り時に話し合い職員間の統一を図った。また、異性介助にも配慮するなどきめ細かな対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常な中でお客様に働きかける際には意思の確認をしている。気持ちを表現できないお客様も多いので、表情や仕草で気持ちを図るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間に2時間ほどの幅を持たせ、その方の状況にあった支援を心掛けている。午睡や入浴に関してもその時々の状況を判断し、働きかけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で仕度される方には服装を提案させて頂いている。ほとんどの方はスタッフがその時に合った仕度を用意し、介助させて頂いている。ご自分でできる方が少ないのでスタッフが配慮している事が多い。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立をスタッフが考えているが、季節やお客様の希望を盛り込めるようにしている。調理などに関わる事が出来るお客様が少ないが、見えるところで調理する事で、関心を持っていただいている。	1・2階とも全介助の方が若干名おり、ほとんどの方は自力で食事ができる。食事形態もキザミ、トロミ、おかゆ等、個々に対応している。献立は利用者の希望や要望を聞いて夜勤者が立て、職員が交代で食事作りをしている。ホームの畑で野菜や花を作り楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事。水分量を記録し観察している。水分量には特に注意し、少ない方には時間を問わず好みの物や口にされ易い物を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後スタッフが口腔ケアを支援している方もいるが、就寝前には確実に全員の方のケアを行なっている。		

ニチイケアセンター四賀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、声掛けや支援を行なっている。立位が困難な方でもスタッフ二人対応でトイレでの介助を行なっている。時間に配慮してトイレ誘導を支援しているが、パット交換が増えている。	ベット上で交換をする場合も出てきているが、職員の2人対応でトイレに「座っていただくこと」を心がけている。リハビリパンツやパット等、使用状況は様々であるが、職員はチェック表をつけ排泄パターンを把握し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や乳製品の摂取を働きかけている。ご自分の意思で動く方が少ないので、身体を動かす機会がもてない。便秘の状態により服薬を調整し、改善を図っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的な入浴日、時間は決めている。(週2回)体調や気分に合わせて、その時々で柔軟な対応を心掛けている。日頃は入浴剤を使用しているが、季節ごとにゆず湯や菖蒲湯を行なっている。	利用者の希望の入浴時間にも対応している。入浴は利用者の気持ちや生活習慣、体調に合わせて入浴方法や回数など臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後や昼食後など基本的に横になって頂いているが、リビングで過ごされることを望む方もいるので個々に合わせている。室温や湿度に配慮し週1回以上の洗濯により清潔な寝具を提供している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師の指導を受けている。処方箋をお客様毎に管理し、スタッフがいつでも副作用の確認ができるようになっている。変更時には管理日誌などに記録し周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	頻繁に行事を入れる事が難しい状況だが、月1回は季節の行事、お楽しみ会など設けられるように努力している。新聞の話題で話をしたり、洗濯物を畳んで頂いたり働きかけを心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	ご家族の協力によって外出される方もいるがほとんどの方が、歩行状態により徐々に困難になってきている。駐車場や中庭など陽気のよい時には外気浴に誘っている。	1・2階とも半分以上の利用者が車椅子を使われている。また、利用者に敷地内ではあるが自発的にゴミ出しをしていただいたり、ホーム横の桜並木を見に出かけるなど気分転換をしていただいている。高齢化と身体機能の低下により外出がやや難しくなっている。	

ニチイケアセンター四賀

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所にてお預かりしている事を伝え、買い物の希望があれば適宜対応している。、スタッフ不足やお客様の歩行状態などからお客様が買い物に出る事が困難な状況。スタッフが代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば事務所で掛けるようにしている。知人から手紙が届く方がいるが、ご本人では対応が困難なのでスタッフが状況を伝えがてら連絡をさせていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中ほとんどの方がリビングで過ごされるので、そこを中心に季節に応じた飾りつけを行なうようにしている。転倒の危険のないように物の位置に留意し、安全、安心な生活空間になるように心掛けている。	居間兼食堂はゆとりのある空間で、掃き出しの大きな窓からは居ながらにして外の景色が見れる。階段の壁には利用者が作られた舞妓さんのちぎり絵が飾られ、顔を入れて楽しめるお雛様の衝立が作られ置かれていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室以外は出入りを自由に行っている。食事の時以外はテーブル席を開放し、落ち着ける場所で過ごして頂いている。廊下のところどころに椅子を置いて、自由に使ってもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に協力していただいているが、動線の安全確保のために、ベッドの位置や物の配置などスタッフの意向を伝える場合もある。	日勤職員が居室の掃除をし、早番職員がシーツ交換をしている。床の掃除は消毒剤入りのモップで行なって清潔に保たれている。居室の壁には利用者が作った作品が貼られ、洋服もラックに掛けられ、一人ひとりの住まいとして穏やかに過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間トイレに起きて来られる方は、トイレの近くの居室を使って頂き、安全の確保に努めている。歩行状態が心配な方でも手すりを使用する事で安全に移動する事が出来ている。		